

～令和4年 3月議会を終えて～

前略

去る3月議会にて、下記項目について、市政に対し提言・質問致しましたので、概略をご報告致します。

草々

質問内容

1. 水産振興の取り組みについて

- 1 長崎の魚のイメージ戦略
- 2 海外への販路拡大
- 3 HACCPの推進
- 4 長崎大学水産学部との連携と企業誘致

2. 5Gエリア拡大への取り組みについて

3. BSL-4施設を中核とする 感染症研究拠点の形成における取り組みについて

4. 出島メッセ長崎の実績状況について

5. 公共施設マネジメント計画の進捗状況について

6. 新市庁舎と現市庁舎の維持管理コストの比較について

次ページより、質問の趣旨と長崎市の回答、及び成果を報告致します。※一般質問の様子を、YouTubeでご覧になれます。



1 水産振興の取り組みについて

1 長崎の魚のイメージ戦略

「魚料理がおいしいと思う都道府県ランキング」というものがあります。
長崎は何位でしょう？

幸いな事に毎年上位にランキングされています。

ここ数年のランキングを見ると、北陸地方が上位に名を連ね、
ある調査会社のランキングでは、昨年の1位は、『富山県』でした。

この富山県。
最近毎年、上位にランキングしています。
『氷見の寒ブリ』を筆頭に、確かに美味しそうなイメージですが、
実は、ある仕掛けが、功を奏しているようです。

富山県農林水産部が、JTBさんと共同で
『るるぶ 特別版 とやま漁港めぐり』を、
2015年の北陸新幹線開通に合わせ制作し、東京を中心に、首都圏にばら撒いた
そうです。

中を拝見するに、一度は行ってみて、食べてみたくなる見事な出来です。

これ

るるぶ 特別版
富山県漁港めぐり



長崎市へ提言

長崎市も、秋の新幹線開通を控え、長崎の美味しい魚をPRする絶好のチャンス。長崎版を作成し、福岡をはじめ九州各県や、東京・大阪の大都市に向け、このような発信を、タイミングよく取り組むべきでは？

長崎市の回答

新幹線開業は長崎の魅力を広く発信するまたとないチャンスととらえ、タイミングを逃す事なく、SNSへの発信や、さしみシティを活用した誘客プロモーションを行います。

長崎市へ要望

長崎市のお魚のイメージが上がっているよう、この機を逃さず、しっかり取り組んで頂く事を重ねて要望致しました。

2 海外への販路拡大

長崎の新鮮な刺身を冷凍加工し、首都圏の消費者に届ける事業を、長崎市は、民間企業とタイアップして取り組んでいます。

進化した急速冷凍技術をにより、『獲れたて』、『作りたて』の鮮度をより保つことができるようになりました。

事業者さん(株式会社 ジョイフルサンアルファ)にお願いし、現場視察と試食をさせて頂きました。

 次ページへ

冷凍お刺身



一度冷凍したお刺身を、解凍して、出されたお刺身とは思えない
鮮度と歯ごたえと美味しさに、驚いた次第でした。

ただ、とても美味しいのですが、このお刺身、一つ弱点があります。
生より価格が高くなります。

そこで

長崎市へ提言

せっかくのこの冷凍技術。

これこそ、海外に販路を見出し、長崎のおいしい魚を海外へ届ける取り組みを、
民間とともにしていくチャンスかと思いますが、ご見解をお尋ねしました。

長崎市の回答

海外市場も視野に入れ、
関係機関(長崎県水産物海外普及協議会、ジェトロ、商工部等)と連携し、
事業者の検討段階に応じた適切な支援に努めたい。

とされました。

長崎市へ要望

ここに、産業と雇用の拡大を産めるチャンスがあり、新しい産業の種があるはず。
海外への販路拡大に、行政も民間と一丸になって取り組むよう。

要望致しました。

3 HACCPの推進

水産物の海外への販路を開拓していく上で、国際的な衛生管理基準である

《HACCPの認証》

であるかどうかは、非常に大事かつ避けて通れない要素です。

ヨーロッパや、アメリカをはじめとした海外では、20年ほど前から、国際基準としての取り組みがあっていた中、大幅に出遅れた日本ではありますが、ようやく日本も、衛生管理の実施が義務化されました。

長崎市へ質問

長崎市の取り組みも 一層加速していく必要があると思うが、これまでの取り組みの実績とともに、今後の取り組みについてお尋ね致しました。

長崎市の回答

長崎市内約90の水産加工場→ HACCPの認証を受けている工場は6つに留まる。

その要因として、

- ①設備投資が大きい
- ②運用に要する経費負担が大きい
- ③輸出の先行きが見えない
- ④そもそも輸出を考えていない

であるからこそ、

長崎市へ提言

海外への販路拡大へ行政の手助けがいる。
是非、取り組んで欲しいと要望致しました。

 次ページへ

そして予算についても要望を重ねました。

長崎市へ質問

HACCP 認証工場を作るのに、『国の制度を活用し支援してきた。』
との事でしたが、国の予算だけでなく、
長崎市独自でプラスして支援はされているのかお尋ね致しました。

長崎市の回答

施設整備に対する支援は**事業費の 1/2 を国費**での支援をおこなっており、
長崎市として上乗せはしていません。

長崎市へ提言

世界に向かって、『長崎ブランドを創るんだ』
という気概をもって、やってもらいたい。
そしたら、
他の自治体より、先行して予算でも力入れる必要があると思う。

せっかくの水産都市。

HACCP 認証においても、ほかの街に1番手を取られる前に、
長崎の強みの一つとして育てていくべきだと考えるところ

ご見解をお伺いしました。

長崎市の回答

水産物の輸出には可能性があり、
施設整備についても事業者のニーズをしっかりと把握し、
支援の方策を検討して参りたい。

との回答を得ました。

4 長崎大学水産学部との連携と企業誘致

全国にたった4つしかない水産学部が、長崎大学にあります。
『水産県長崎』らしい、象徴的な存在の1つでもあります。

さてこの水産学部、
【新たな水産産業】、【新たな海洋産業】の創出を目指し、
様々な企業と連携し研究を重ねておられます。

例えば

- 京セラと共同で開発を進める、浮沈式 潮流発電の実験。
 - 海洋のゴミを調査する「調査船ロボット」の開発。
↓ これは次のステップでは、 - 海洋のゴミを、無人で回収できるロボットへの開発。
 - 浅い海に生息する海藻が、二酸化炭素を吸収する「ブルーカーボン」の仕組み。
 - 洋上風力発電。
 - 沖合での『養殖いけす』の研究。
 - 藻場の再生。
- 等々。

このように例を挙げていくと枚挙にいとまがない程、
長崎の水産振興においても、大変貴重な取り組みの数々です。

 次ページへ

長崎市へ質問

せっかくの水産学部の取り組みを、
長崎の水産振興において、どのような連携をされておられるのか？

お尋ねしました。

長崎市の回答

長崎大学水産学部と連携し、
長崎の水産業に活かしていく事はとても重要なことと認識しており、
様々な面で双方連携を行っている。

また、このような研究・勉強をする為、
水産学部には全国から学生が集まり入学されています。

しかし、
せっかくの人材でありながら、そのほとんどが卒業後、
長崎にそれらのノウハウを活かせる就職先はなく、県外へと流出しています。

長崎市へ提言

せっかくの人材を活かしつつ人口流出を防ぎ、
新しい産業を育てていく上にも、
関連する企業の誘致に力を入れて頂きたい。

と提言致しました。

長崎市の回答

長崎大学などで育成した専門人材が、
そのノウハウを地元で活かせる環境を作っていくことは、
水産業の振興や若者の長崎定着につながるものであり重要なことと考える。
大学や関係機関との連携を密にし、新たな雇用や産業の創出に図って参りたい。

2 5Gエリア拡大への取り組みについて

岸田内閣が、『デジタル田園都市国家構想』を地方活性化策として掲げております。

これからの先端技術を用いた街づくり、都市の進化において、スマートシティ化は、必須の取り組みであるといえます。

その為にはまず、その基盤となるインフラとして、高速かつ大容量の、次世代通信規格『**5Gエリア**』を構築していく必要があります。

インターネット回線の普及では、都会と比べ大幅に遅れた長崎市でした。

5Gエリアの構築まで遅れると、益々都会との格差が広がる事にもなりかねません。

長崎市へ質問

今後、
企業誘致や長崎市への移住を促していく上でも、早期のインフラ整備は急務
と考える中、その基盤となる『5G エリアの構築』に向けた取り組みについて

考えをお聞きました。

※スマートシティ

都市内に張り巡らせたセンサー・カメラ・スマートフォン等を通じ、
例えば、環境や設備の稼働、消費者の行動等の様々なデータを収集し、
それをAIで分析し、必要に応じて遠隔制御するなど、
都市の利便性や快適性の向上を目指すものです。

※5G

第5世代移動通信システム(5th Generation)の略称で、携帯電話の通信などに
用いられる次世代通信規格の1つです。
より高速・大容量・低遅延・他接続を実現します。

 次ページへ

長崎市の回答

国において、
過疎地など条件不利地域に 5G アンテナを設置する補助事業が実施されている。

長崎市としては、
4Gより電波の届く距離が短い為、より多くの基地局が必要となることから、
基地局設置に対し活用可能な市有地や建物の情報提供など、通信事業者の整備が
円滑に進むよう支援していきたい。

との回答を得ました。

ここで、
5G 活用の一例として
【**沖合養殖**】について

《今回の私の一般質問のテーマは、》

- 1、長崎のお魚のブランドイメージを国内でもっと上げる取り組み
- 2、国内のみならず、海外への販路拡大の手助け。
- 3、その上で、HACCPの認定は不可欠。

という展開

しかし、
売り上げを上げようにも、魚が獲れなきゃ上がりません。

なので、
この打開策として、『**獲る漁業**』▶▶▶『**創る漁業**』

という取り組みも重要。
この一つが⇒『**沖合養殖**』!!。

この沖合養殖。

今、長崎大学水産学部を中心に、産学官連携で、技術開発をしている最中です。

『育てて稼ぐ』という

漁業モデルを確立しようと、取り組まれているのですが、
従来の沿岸から、数キロ離れた沖合に『いけす』を持っていく事で、
潮の流れがある為、

**水質がよくなり、
餌をやる事による汚れも改善され、
生産効率が上がるメリット**
があるそうです。

一方で沖合に行く分、
遠くまで餌をやりに行く負担
人手不足の中、管理する負担
が上がるデメリットも出るとの事です。

ここで5Gなんです。

- ①センサーを付け自動運転で餌を与える装置
- ②リアルタイムで魚の様子を画像にして陸上に送る、

これで、
餌をどれだけ食べてるか？
病気になっていないか？
などがわかるそうです。

**※【養殖AI】、【養殖DX】という世界で、
海の見える化、海のネットワーク化を目指しています。**

 [次ページへ](#)

このような場所に、
5Gのインフラ基盤が不可欠なのですが、日本の西の果ての海の上です。

通信事業者はあくまで費用対効果。

利用者が一定見込める所でないと、基地局の設置はしないという事です。



そこで、

長崎市へ提言

こういった事業や、市民サービスが上がるといった際には、
行政が積極的に、基地局の整備をしていく必要があるのでは？



と考えをお伺い致しました。

長崎市の回答

採算性が合わない地域への整備や後回しになる恐れがある地域に対しては、
通信事業者が設置する 5G だけでなく、企業や自治体が個別に設置できる
【ローカル 5G】の活用など状況に応じ最適なものを選択していきたい。

との回答を得られました。

技術革新により、

Point

獲れなくなっている魚を、大量に沖合で養殖して作り、
味を落とさず冷凍加工して、海外へ輸出。
利益率も上がり、儲かる漁業として、
大きな産業に育つ可能性がここにもあると思います。

そこで、

長崎市へ提言

現在、この取り組みは、産学官連携で実証実験をしている最中です。

実証実験から本格的にいける。

となれば、

民間の投資が始まるかと思いますが、立ち上がるまでの投資は、
行政からの支援も必要かと思っています。

大きな産業に育つ可能性があります。

ノルウェーがサーモンで世界的に成功しているように。

例えば、

長崎のトラフグが世界で冠たるものになるかもしれません。

資金面の支援も合わせて、

長崎市の考え方をお聞きしました。

長崎市の回答

養殖のあらたな展開を目指す取り組みは、

大学や漁港とともに共同試験を行っていくこととしている。

**今後、研究が進展し実用化に向けた段階ではさらなる資金需要も考えられる為、
段階に応じて、支援を検討して参りたい。**

との回答を得られました。

3 BSL-4施設を中核とする 感染症研究拠点の形成における取り組みについて

長崎大学が有する熱帯医学研究所での感染症研究や医療分野は、
長崎が持つ大きな強みとして、関連する企業の誘致を計り、
感染症研究の拠点として、新たな産業を構築していくべき。

と提言を続ける中、

世界最高水準のBSL-4施設も昨年完成しました。

海外の病気、発展途上国の病気という価値観から、
感染症は、瞬時に世界に広がっていく事を目の当たりにし、
感染症に対する研究やワクチンや薬を創る重要性が認識されました。

そういった中、

長崎大学がこの分野で持つ優位性も全国に認識されました。

長崎市においても、その強みと重要性について理解が深まり、
長崎市重点プロジェクトの1つ、

『**新産業の種を育てるプロジェクト**』に採用され、
医療分野においても産業を育てる取り組みが始まりました。

長崎市へ質問

今後の取り組みについて伺いました。



長崎市の回答

感染症研究などの医療分野で長崎大学が持つ優れた資源や実績を、あらたな産業の創出につなげる為、大学と定期的な情報交換を通じ、必要な支援を行っていきたい。

との回答を得ました。

長崎市へ要望

今後、感染症のワクチン開発や、創薬を推進していく日本の重要な拠点となっていく事は明らかです。

それに伴う、医療機器の開発や、新たなビジネスモデルの創出に向けた取り組みも、必要になってくるものと思います。

しっかりとアンテナを張って頂き、産学官連携の体制を構築して頂ければと重ねて要望致しました。

BSL-4施設



4

出島メッセ長崎の実績状況について

11月に開業した『出島メッセ長崎』は、年間の来場目標を上回るペースで来場され、滑り出し上々のスタートを切れている。
と聞いています。

この施設を建設した成果は、掛かった建設費と維持費に対し、
どれだけ経済効果が上がったのか？

という事だと思います。

この点は、非常に懸念を持っていましたので、

以前

平成26年12月の一般質問

にて

『長崎市が目標としている人数は果たして達成可能なのか？』

『そんなに会議やイベントの数が行われるものなのか？』

『長崎市民が利用して何の経済効果を生むのか？』

という趣旨の質問を致しました。

また仮に、

『その人数や会議の数が達成されたとしても、もともとこれまで、

市内のホテルやイベント会場で行われているものが、

場所を代えて実施されたのみであるなら、何の経済効果もないどころか、

ただの民業圧迫になるのではないか？』

という懸念も重ねて質問致しました。



当時の回答

『学会・大会が271件、市外からの会議が238件、市内の会議が304件の目標数字は、すべて新規の数字で、現在行われているものに
プラスオンされる数字です。』



と回答されました。

『プラスオンされる。』

という見解に大変驚いた次第でした。

マイス施設を作るとそんなに新規の需要が掘り起こせるものなんだろうか？

という疑問を持ちつつ、

本会議場で、はっきりそう回答されたので、

『一応受け止めておきます。』

とやり取りしたものでした。

長崎市へ質問

現在までの来場者数のうち、

プラスオンされた会議や来場者数は、如何ほどなのか？

お尋ね致しました。

長崎市の回答

年間利用想定人数は、目標の 103%を見込み、

そのうちで市民のみが利用している催事は全体の 3% = 224 件。

これを除くと開業後 2 か月の経済波及効果は、

概算で 19 億円と見込んでおり、当初の見込みを上回っております。

コロナ禍において、

日常であればもっとプラスされていた会議&宿泊。

経済効果も実感ことも難しい環境の為、現段階においては評価しづらい状況でした。

今後とも注視して参ります。

 次ページへ

5

公共施設マネジメント計画の進捗状況について

人口減少が進む中、長崎市が保有する公共施設を、このまま維持し続けた場合、将来発生する更新経費が、これから30年(2013年当時)、

2044年までに879億円不足する。

と試算されました。

これを受け2015年

市が所有する公共施設の延べ床面積を今後15年で25%削減する。

との方針を出しました。

決して目標だけで終わらぬよう、
公共施設の適正配置基準や地区別計画の策定など、
さらにきめ細かく様々な方針や計画が策定されました。

さて、あれから7年。

目標の15年間のうち、半分の月日が経過しました。

長崎市へ質問

2029年までに、
879億円削減するとした目標の達成状況をお尋ねしました。



※長崎市の公共施設は、
学校と市営住宅が全体の約2/3を占めています。

長崎市の回答

25%削減目標 → 実績 **5.2%**の削減に留まる。



長崎市へ再質問

5.2%の達成率。
進捗が遅れている要因は？



長崎市の回答

個々の施設の統廃合の話になると、地元住民からの反対の意見が上がる為。



財政的観点から ➡ 公共施設の廃止の方向性には『賛成』
各地元は ➡ なくなるのは『反対』
＝『総論賛成』、『各論反対』。

長崎市へ要望

わかっていながらのこの体たらく。
一方で、市庁舎、出島メッセ、恐竜博物館と大型施設を次々と建設。
市民に示しがつかない。

しっかり取り組んで頂きたい。

等々の苦言を呈し、

と強く要望致しました。

6

新市庁舎と現市庁舎の
維持管理コストの比較について

年末に完成する新市庁舎ですが、建設前の平成 29 年 9 月議会にて、新市庁舎の維持費について、本会議場で質問した事がありました。

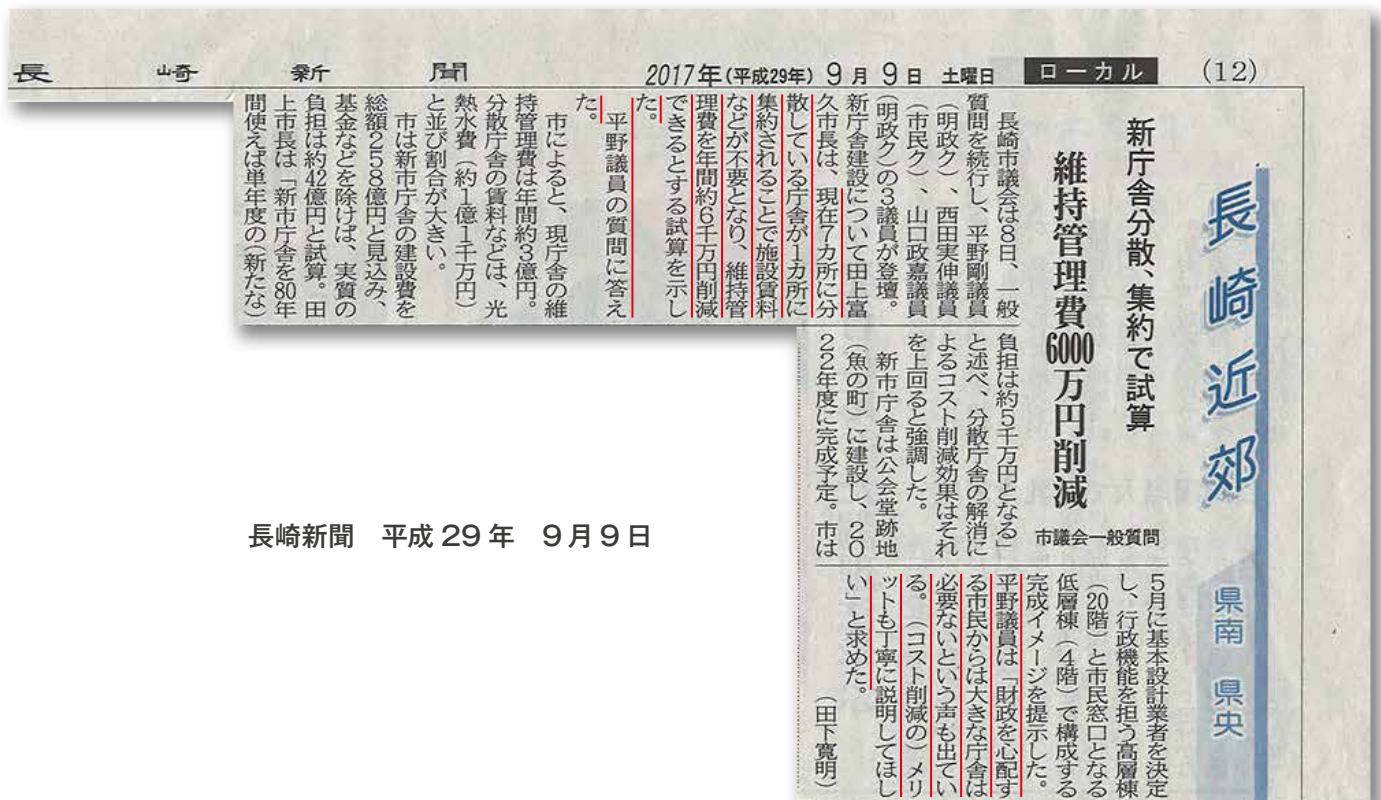
その際は、

< 1 棟に集約するメリット >

- ・分散している庁舎の賃料分
 - ・最新の省エネ機器による光熱費の削減
- 等により、**6000 万円**程の経費を削減できる。

と答弁されました。

この **6000 万円**の削減については、翌日の長崎新聞にも記事になっておりました。



またさらに、

プラスαの要素として、

- ・レストランや売店を民間にやってもらう事による賃料収入
 - ・分散庁舎を貸し付け又は売却による収入
- も財政面に寄与する。

との回答もなされております。

私はてっきり、
分散している庁舎を1棟に集約するメリットは大きく、
ランニングコストは改善し、年間のキャッシュフロー的には、
むしろプラスになる。
と認識し、

新庁舎建設は財政的にもいいことだと思っていました。

ところが先日、
『新庁舎移転に伴う維持管理コストの増加』について、
説明を受けました。

当初、
約 6000 万円の削減としていたものが、



庁舎が巨大化する事により、
・清掃費や保守点検費の増加
・新たな出費
・諸々

差引約5000万円、コストがこれまでより増える事になります。

との内容でした。

長崎市へ質問

新庁舎建設の可否を問う際には、1棟集約のメリットを強調され、
巨大化する事によるコスト増のデメリットの話はなかった記憶でした。

完成する段になって、色々試算した結果、
『コストが増えます。』
と、まるで騙されたような気分にもなる説明を受けました。

この際、
市民の皆さんにも、きちんとわかりやすい説明を公に求めました。



市民の皆様に公開する為、長崎市ホームページへ、
『新庁舎移転に伴う維持管理コストについて』という題目で
掲載する事になりました。



東側交差点から広場・正面玄関をみる



南側から建物全景をみる

- 市民の皆さんの利用が多い手続や相談の窓口を1階から4階の低層階にまとめて配置します。
 1階は身近な手続や相談の総合窓口、2階は子育てワンストップ窓口、3階は市税や国保等の窓口、
 4階は生活保護や道路・河川などの専門的な窓口を配置します。
 ○5階には議会機能（傍聴席は6階）を集約して配置します。
 ○7階から18階には全庁的な企画・管理部門などを配置します。

19階 ▶	屋上広場	展望ホール	機械室	展望ホール
18階 ▶	まちづくり部	都市計画課、公共交通対策室、長崎駅周辺整備室、景観推進室、まちなか事業推進室		
	建築部	住宅課、建築指導課		
17階 ▶	建築部	建築課、設備課		
	土木部	土木総務課、土木企画課、土木建設課、土木防災課、用地課		
16階 ▶	上下水道局事業部	給水課、浄水課、下水道建設課、下水道施設課		
		監査事務局		
15階 ▶	上下水道局事業部	事業管理課、水道建設課		
	上下水道局業務部	総務課、経理課、料金サービス課		
14階 ▶	商工部	産業雇用政策課、商工振興課、ふるさと納税推進室		
	文化観光部	観光政策課、観光交流推進室、交流拠点施設整備室、文化財課、世界遺産室		
	水産農林部	水産農林政策課、水産振興課、農林振興課		
		農業委員会事務局		
13階 ▶	環境部	環境政策課、廃棄物対策課、環境整備課		
	原爆被爆対策部	調査課、援護課		
12階 ▶	教育委員会教育総務部	総務課、施設課、適正配置推進室、生涯学習課、恐竜博物館推進室		
	教育委員会学校教育部	学校教育課、健康教育課、学校給食センター整備室		
11階 ▶	福祉部	福祉総務課、介護保険課		
	福祉部	高齢者すこやか支援課、地域包括ケアシステム推進室		
	市民健康部	地域保健課、新型コロナウイルスワクチン接種事業室、地域医療室、健康づくり課、生活衛生課		
10階 ▶	市民生活部	自治振興課、市民協働推進室、人権男女共同参画室、文化振興課、スポーツ振興課		
	理財部	財産活用課、資産経営室、契約検査課、検査指導室		
9階 ▶	総務部	総務課、人事課、職員研修所、行政体制整備室		
		選挙管理委員会事務局		
	企画財政部	長崎創生推進室、移住支援室、大型事業推進室、地域コミュニティ推進室、開港450周年事業推進室、財政課		
8階 ▶	企画財政部	都市経営室		
	秘書広報部	秘書課、広報広聴課、広報戦略室、国際課		
7階 ▶	総務部	情報政策推進室		
		情報統計課		
		防災危機管理室		
6階 ▶	傍聴席	機械室		
5階 ▶	議場	議会事務局 総務課、議事調査課	議会 委員会室、議員控室など	
4階 ▶	理財部	資産税課		
	中央総合事務所	総務課、地域福祉課、生活福祉1・2課、地域整備1・2課		
	上下水道局	料金受付センター		
3階 ▶	理財部	収納課、特別滞納整理室、市民税課		レストラン、 売店、銀行
	市民健康部	国民健康保険課、後期高齢者医療室		
		出納室		
2階 ▶	こども部	子育て支援課、こども健康課、幼児課、こどもみらい課		多目的スペース、 市民利用会議室
	福祉部	障害福祉課		
1階 ▶	総合窓口	中央地域センター、住民情報課 各種相談窓口		情報コーナー 銀行ATM
地下 ▶	来庁者用駐車場			

※令和3年度時点の配置計画であり、今後、組織変更や職員の増減により変更する場合があります。

締め

今回の質問は、
人口減少著しい長崎市において、

- ①長崎の強みを活かし、
- ②新しい産業の種を見出し育てていこう。

と考える中、

長崎大学の強みを活かす事を提言致しました。

●**医学部**は、日本最古の医学部であり、西洋医学発祥の地であった事。

●**薬学部**は、小島養生所の分析究理所を源流としています。

→この歴史、強みから、世界最高水準のBSL-4施設ができました。

今後、

ウィルス研究、

新薬の開発、

医療機器の開発が期待され、

この分野のメッカとなる可能性を秘めています。

●**情報データ科学部**は、

関連する企業の誘致に、人材輩出の観点でその存在を示しはじめています。

●**水産学部**は、**工学部**とも連携し、

洋上風力発電の開発など『カーボンニュートラル』の分野での活躍も期待できます。

これらは、

間違いなく長崎の強みであり、新しい産業の種がここにあると思います。

長崎大学には、約9000人の学生がいらっしゃいます。
その約7割が県外から来られています。

しかしながら、
そのほとんどが、長崎から出て行ってしまっています。

新しい人材を育成し、長崎に残ってもらえる新しい産業を育成する。

産学官の取り組みの中で、
**これは必ず構築していつてもらいたい事で、
帳面消しの取り組みでなく、
長崎市は真剣に取り組んでいつてもらいたいと思います。**

長崎市長に提言

これこそ、市長の強い意思。強いリーダーシップを求めて…

質問を締めました。

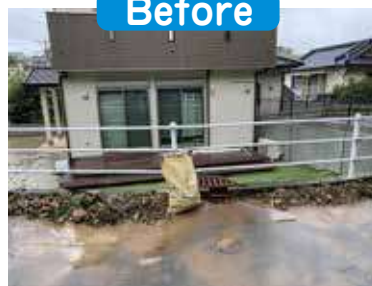


長崎大学 医学部 正面門

皆さんの声でこんな仕事もしています！

若竹町水害被害

大雨時、民家へ土砂が流れ込んでいたので、自治会要望により対応して頂きました。



平和公園 乙女の像

かなり汚れが目立っていた為、綺麗にしてもらいました。



新聞記事にも
なりました。
3/21付 長崎新聞



南山小学校校門前 横断歩道設置

校門へ渡る際、事故が起こらないよう横断歩道を設置してもらいました。



各種媒体でお伝えしています

いずれも「平野 剛」の検索で表示されます。
長崎や市政に関する情報を配信しておりますので
是非ご参照ください。

平野 剛 公式ホームページ



<http://hirano-tsuyoshi.net>

平野 剛 オフィシャルブログ



<http://ameblo.jp/hirano-tsuyoshi/>

平野 剛 facebook



<https://www.facebook.com/tsuyoshi.hirano.92>

今後とも長崎市の皆様のお役に立てるように
日々活動してまいります。

お住まいの地域や長崎市行政についての
ご質問やご相談などございましたら、
お気軽にお問い合わせください。

〒850-8685 長崎市桜町 2-35

長 崎 市 議 会 控 室

TEL.095-829-1405

FAX.095-822-0020